

大分教育事務所訪問 9

臼杵市立下南小学校から学ぶ

学校の教育目標「地域とつながり、未来を拓く『下南っ子』を育成するために、目指す子ども像とそれぞれの資質・能力を「かしこい子(知識・技能)」「やさしい子(思考力・判断力・表現力)」「たくましい子(学びに向かう力・人間性等の育成)」として、組織的に取り組んでいる下南小。

それぞれの重点目標を丁寧に作成し、学校、保護者、地域とが協働して取り組んでいる姿勢を強く感じました。

学校経営から学ぶ

各重点目標に対して、「重点目標検討会」において子どもの実態(根拠資料)をもとに取組指標や達成指標を設定しているため、各リーダー(主任等)を中心に実践が深まっています。特に注目すべきは、校長先生がリーダーシップ発揮し、コロナ禍においても学校運営協議会等との協議を行いながら、安全安心部、環境整備部、学習支援部が重点目標に対して協働的に取り組んでいることです。そのためにも、今後は子どもにつけるべく「育成を目指す資質・能力」を絞り込むことで、より連携が図れると思いました。



NO.65 2021年6月 臼杵市立下南小学校

わくわく授業

「私もできそうだ!」見通しがもてると、意欲は高まる。はやくやりたくなる。

授業から学ぶ

1年生とても意欲的で問題を配ると同時にすぐに解いていました。また、2年生は教師の課題の見せ方がとても上手く、子ども達も楽しく課題に取り組みました。また、5年生では「なぜ漢字が覚えられないか」と子ども思いを出し合いながら、どうしたら克服できるのかという意欲を高める流れは見事でした。(ドラゴン桜のようでした 笑) このことから、特に低学年や集中できにくい子どもに対しては、テンポのある流れや、短い時間の学び合いを複数回入れることで、集団の力で課題に向き合うことができることでしょう。

校長先生の「職員に『楽しい授業とは何か』と訪ねたときに、各々が明確に答えられるようにしたい」という思いから、単なる小手先の授業改善ではなく、本質的に授業がどうあるべきかを研究しているように思えました。そのためには、日々の授業の「ふりかえり」において、資質・能力がついているかを見極めるような実践が期待されます。



NO.64 2021年6月 臼杵市立下南小学校

自分と対話

みんなと学んだあの場面、あの時に考えた内容を思い出しながら、自分と対話する。



NO.66 2021年6月 臼杵市立下南小学校

調べてみると

ただ覚えるよりも、成り立ちを知ると、記憶に残るし応用でき、確かな知識となる。



NO.67 2021年6月 臼杵市立下南小学校

挙手の意味

みんなに伝えたいことがある。先生や友達に認めてもらいたいことがある。